

登山・登攀の記録

北アルプス 冬の立山横断 雄山東尾根～千寿ヶ原

日時：1994年12月25日～12月30日

メンバー：OB加藤誠(単独)

概要：黒部側から雄山を超えて弥陀ヶ原を滑り美女平に至る行程。

記録

12月25日

旧有料道路のゲートでタクシーを降りて歩き、トンネルを経てダムに至る。遊覧船乗場で泊る。

12月26日 晴のち風雪

尾根の末端まで行きスキーで登る。シールが効かず、灌木も多く苦勞する。黒部平から1940まで強引にスキーで登り、ワカンにかえる。大汝、富士ノ折立が正面に大きく見える。雄山神社、雷電峰方向は東尾根の影になって見えない。昼過ぎから風が吹き出し夕方に風雪になる。2350あたりの尾根を切り崩して天場とする。

12月27日 風雪のち晴

朝起きると風雪が強く、出発が遅れる。痩せ尾根から2681手前のなだらかな広い尾根となる。ワカンで膝まで潜るところも多く進みづらいなが、2681を超えて2750付近に出ると雷電峰が現れた。こままではワカンでスキーをひきずっていたが、アイゼン、ピッケルでスキーはザックに担ぐ。雪稜を慎重に抜け、岩稜のミックスに至る。

このころから風が強まり上空に高層雲が広がる。くたくたに疲れて雷電峰に到着するとすでに4時。

一人満足感にひたった後、左に雲海と夕日を見ながら雄山を目指す。5時頂上着、疲れた体にむち打ってテントを張る。

12月28日 晴のち雪

気温-13度。頂上直下で通勤途中の友人と無線でつながる。一ノ越からスキーに履替えて滑り出すが、雪面の起伏が見えず、転倒、唯一のシュプールを残して人気のない室堂平に出る。この頃から2,500m以上は晴れ上がり、剣岳も見えてきた。今来た雄山方面を振り返りながら再びガスの中へ滑り込む。弥陀ヶ原からは道路上を滑る。だんだんガスが濃くなり、雪も降りだした。かろうじて見えるポールも見えにくくなってきたのであきらめて弥陀ヶ原末端1650付近で泊とする。

12月29日 雪のち晴

沈殿。広々した弥陀ヶ原の景色が目前に広がる。

12月30日 曇

新雪50cmのなか、ひたすら歩く。美女平から尾根沿いの登山道を千寿ヶ原に向かって下山(記/加藤 誠)

